



# 寺報

2013年(平成25年)

No. 214

# 9月号

Zenkyo-ji monthly  
Communications Paper  
En [えん]

# 縁



本堂前の灯籠 善教寺「石」シリーズ その8  
本堂正面の参道両側に一対あります。

## 楽しい仏教用語

その26

### 【愚痴】(ぐち)

言つても甲斐のないことを、くどくどと言つて歎くことを「愚痴をこぼす」といいます。愚痴とは泣き言のことでしょうか。

お釈迦さまは「人間が苦悩する原因是、心のなかに宿る煩惱(ほんのう)にある」と教えられました。貪欲(とんよく)・むさぼり欲しがる心、瞋恚(しんに)・いたり腹立つ心と愚痴とは、百八種の煩惱のなかでもとくに強力なもので、三毒の煩惱といいます。

### 【供養】(くよう)

供養は死者などの靈を慰めることの意味で、一般に用いられています。

「供養」はインドの言葉で「ブージャナー」とい、「尊敬する」「崇拜する」という意味です。それが仏・法・僧の三宝、つまり仏教教団に対して衣服・食物・薬品・財物などを捧げ、尊敬すべき対象を養うことになりました。

供養とは進「供」資「養」の意味だというのがそれで、いろいろな種類があります。

バラモン教が動物の犠牲による儀式であるのに対し、仏教は不殺生の立場から採用したものと言われています。そして、礼拜の対象へ水、華、香、灯火などを供えることとなり、やがて、現在のような意味になりました。

『ちかいのうた』の中に、  
「欲(よく)と瞋(いかり)と  
癡(おろか)さの  
わざわい永遠(とわ)に

とあるのがそれです。

愚痴とは、目さきのものにとらわれて、真理を解する能力のない愚かな心を指しているのです。

### 住職レター

お盆を過ぎても、毎日の猛暑、残暑とは言い難い…。いつまで続くのでしょうか、この猛暑…改めて、残暑お見舞い申し上げます。

二日、善教寺本堂にて『夏の子ども会』を開催しました。善教寺仏教婦人会役員の皆さまが、お昼には手作りカレーを作つて下さり、デザートには採れたてのスイカを、皆でかぶりつきました。

子供の時の記憶は、なぜか鮮明に覚えているものです。私が小学生の頃、寺での子ども会は、一泊二日で開催された時がありました。本堂で友達と一緒に泊りるのは、それは貴重な経験であり、楽しかった記憶が残っています。寝る前には、肝試しに行きました。



本堂の裏手、暗い所へ、一人で行って帰るのですが、無茶苦茶、怖かった。本堂で布団を敷いて、寝ながらお喋りしたことを、今でも覚えています。

今回の『夏の子ども会』大人になつても、良き思い出として記憶の片隅にでも残つてくれたらな…と思っています。

「無茶苦茶、暑かつた」という記憶だけでも、まく良いかな…。

